



Graduate School of

Agriculture

農学研究科

環境の世紀に食料・環境・生命の問題解決への道を探究する

「環境の世紀」とも呼ばれる現在、人間活動が地球環境に与える影響を分析し、子孫に残すべき環境を護るための努力が求められています。地球上の80億人を超える人々が健康で文化的な生活をするためには、食料生産の維持、拡大と流通の確保は焦眉の急ですが、これに伴う森林伐採、大気・水質汚染などの環境問題、生物・遺伝資源多様性の減少などの問題にも適切な対応が求められています。地球規模の気候変動の中で持続可能な農業を展開し、自然と人間の共生と調和を図ることが、人類の今後の生存を保障すると考えられます。このような重大な状況の中で、農芸化学専攻、農学専攻、農業経済学専攻、生命科学専攻の4専攻で構成される農学研究科は、21世紀が直面している「食料・環境・生命」に関する重要な諸問題について解決の道を探究するために、分子・細胞レベルから人間の社会活動や地球環境レベルに至るまで、幅広く多様な視点から研究・教育活動を行っています。

開室時間（中央校舎1F）

※事務取扱時間（開室時間）はHPで確認してください。

電話●044-934-7575 Mail●nouken@mics.meiji.ac.jp

※休業期間やイベント等により開室時間に変更となる場合があります。



農学研究科Webページ

<https://www.meiji.ac.jp/agri/daigakuin/index.html>



入学者の受入方針

（アドミッション・ポリシー）

https://www.meiji.ac.jp/agri/daigakuin/policy/graduate_ap.html



教育課程編成・実施方針

（カリキュラム・ポリシー）

https://www.meiji.ac.jp/agri/daigakuin/policy/graduate_cp.html



学位授与方針

（ディプロマ・ポリシー）

https://www.meiji.ac.jp/agri/daigakuin/policy/graduate_dp.html

● 人材養成その他の教育研究上の目的

産業の著しい発展により人類が豊かになった反面、地球環境全体に関わる問題が深刻化している21世紀は、環境の世紀とも言われている。農学研究科は、自然と人間の持続的な共生と調和を目指して「食料・環境・生命」の総合科学を推進している。分子レベルから地球環境レベルに至る多様な課題について、ライフサイエンスから社会科学までの幅広いアプローチにより、生命への洞察力和豊かな人間性を育み、高度な専門知識を備え、広い視野から問題解決に当たることができる専門性と総合性を兼ね備えた人材を育成することを目的とする。



● 農学の発展に寄与する4つの専攻

農学研究科は、農芸化学専攻、農学専攻、農業経済学専攻、生命科学専攻の4分野で構成されています。

農芸化学専攻

食料や環境、生命に関する諸課題を克服し、人類の持続的生存を保証するために貢献することを目指します。

農学専攻

広く農学に関する動物、植物、環境を対象とし、基礎と実用の融合した教育・研究の展開を目指します。

農業経済学専攻

国内はもとより、広く世界の食料問題、農業問題、環境・資源問題、農村地域問題などの解決に貢献することを目指します。

生命科学専攻

生命の分子機能、生殖医療、健康福祉、生物共生と環境保全など、人間社会の維持・発展に貢献することを目指します。

● 農学研究科の主要研究施設・設備

ライシメータ

作物を実際に栽培しながら、降雨量、灌水量、および排水量を観測し、作物の蒸発散量(要水量)を経時的に捉えるための施設。地下水を調節することも可能であり、作物生産において重要な水収支との関係を定量的に解析しています。



電子顕微鏡システム

200kVoltの加速電圧が可能な透過電子顕微鏡(HC-TEM)と電界放射型の走査電子顕微鏡(FE-SEM)からなります。ナノスケールのウイルスやタンパク質1分子を見ることが可能です。



高速次世代シーケンサー

初期のゲムプロジェクトでは何年もかかったヒトゲノムの30億塩基対を1~2日程度で決定できる能力を持ったシーケンサーです。農学部特有のゲム未知の微生物から産業動植物まで、幅広い生物種のゲノム・ポストゲノム解析を行うことが可能です。



マイクロアレイデータ処理装置

刺激や環境条件による数千種類の遺伝子発現の変化を網羅的に調べる装置で、ポストゲノム解析に活用されています。



プロテオーム解析用質量分析システム

生体分子の質量を10万~100万分の1ほどの誤差範囲で正確に測定することができ、極微量の試料を分離できる液体クロマトグラフィーと併用することで、一度に数百種類のタンパク質を分析することが可能です。



誘導結合プラズマ質量分析計(ICP-MS)

高温のプラズマと磁場の中に液化試料を導入し、わずかな質量差を捉えて土壌、動植物など、物質を構成している多元素の微量分析ができます。



黒川農場

環境・自然・地域との共生をコンセプトとした農場を、2012年4月に神奈川県川崎市麻生区の黒川地区に開場しました。生田キャンパスからも近く、これまでの千葉県・誉田や山梨県・富士吉田の両農場では難しかった、年間を通しての継続的な実習なども可能となりました。農場は黒川地区の自然を最大限に生かした設計がされており、先端技術を駆使した生

産効率の高い栽培システムと、有機農法をはじめとする環境保全型システムを併せ持ちます。地域と大学の連携による多目的な都市型農場を目指しています。体験型実習教育ならびに、研究活動に対応できる多目的な都市農場を実現するため、「環境共生」「自然共生」「地域共生」の3つのコンセプトを基本にそれぞれのシステムを備えています。

農芸化学専攻

農芸化学専攻では、生物や環境の構造と機能および物質変化（代謝・生態）の本質的解明を人間生活に応用することを目指しています。特に食品化学、微生物学、栄養学、環境学などの分野で多面的な研究を行っています。

人材養成その他の教育研究上の目的

農芸化学専攻では、「食料・環境・生命」の分野における諸課題を物理、化学および生物学の自然科学ならびに分子生物学、工学などをもとにし、先端技術を駆使して解決することを主眼とする。教育研究上の目標に、人と他生物の共存（持続可能な地球環境）を図ることも念頭に置き貢献することを目的とする。教育・研究を通して輩出する人材は、農芸化学分野に関係する世界をはじめ、あらゆる職種に適う応用力のある専門性に富んだ人材の養成を目指す。博士前期課程では、農芸化学に係る広い知識および高度な技術を身につけた研究者または技術者を育成する。博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、独創的・革新的な研究・開発と実社会での指導的役割を担う研究者・教育者を育成する。

2025年度 修士論文テーマ [抜粋]

- ▶2-モノバロミチンによる抗肥満および抗糖尿病作用に関する研究
- ▶タンパク質欠乏時に増加する可溶性レプチン受容体の生理的意義
- ▶アブシジン酸分解酵素遺伝子の水応答性シス配列の探索
- ▶アリンのおいしいオノマトペ食感の見える化—プラントベースアリンへの展開—
- ▶植物におけるオキシリピン・アミン酸縮合体の機能解析
- ▶黒麹菌Aspergillus luchuensisにおけるハイドロフォービン遺伝子の探索と遺伝子組換え系の構築
- ▶食事由来酸化stigmasterolの生体への影響
- ▶麹菌A. oryzae</i>のハイドロフォービン遺伝子</i>-hypk</i>の機能解析
- ▶ヒカゲノカズラ由来オノセロイド合成酵素の機能解析
- ▶植物ホルモンとしての活性型ストリゴラクトン分子の探索
- ▶シアノバクテリアにおけるビルビン酸キナーゼ2のバイオフィオマトイクス・生化学解析
- ▶植物ホルモンジャスモン酸による抗不安様作用と中枢神経機能に関する研究
- ▶水田土壌からの新規メタン酸化細菌の分離
- ▶麹菌Aspergillus oryzaeの多重マーカー—宿主の開発
- ▶キハツタケ (Lactarius tottoriensis) およびハイカグラテンゲタケ (Amanita sinensis) 子実体の化学的組成研究
- ▶生分解性プラスチックポリヒドロキシアルカン酸(PHA)高生産菌Cupriavidus necator H16株による環境汚染物質ビフェニルからのPHA生産
- ▶成長過程における脂質栄養の違いと生体機能変化に関する研究
- ▶ケトン体β-ヒドロキシ酪酸による視床下部を標的とした摂食抑制ホルモンの感受性向上効果に関する研究
- ▶睡眠の質を向上させる新しい植物由来成分に関する研究
- ▶真核紅藻Cyanidioschyzon merolae由来リンゴ酸酵素の生化学的解析
- ▶2-モノバロミチンに着目した内分泌機能および生体機能の制御に関する研究
- ▶糸状菌由来新規ステロールアミノ酸誘導体の生理機能解析
- ▶10多種の超分子構造変化に着目した微生物材料活性に関する研究
- ▶米製品の食感に関する研究
- ▶大腸菌におけるナトリウムイオン応答転写因子NhaRの新規ゲノム転写制御ネットワークおよびその生理的意義
- ▶N-アセチルグルコサミンによるGPCR5Cを介した2型自然免疫応答抑制機構の解明
- ▶脂質源の違いによる自発的運動量の変化に関する研究
- ▶木質バイオマス燃焼灰へのCO2吸着量を規定するパラメータ導出
- ▶木質系バイオ炭施用土壌におけるリン可給性と根系発達に注目した植物のリン吸収制御機構の解明
- ▶麹菌A. oryzaeにおけるハイドロフォービン融合酵素NagA-HypGの生産と物性解析
- ▶メタン菌の分離と絶対嫌気性菌の培養法に関する研究
- ▶ジャスモン酸の脂肪細胞分化に対する作用の解析
- ▶ヨーグルトのなめらかな食感と加工条件に関する研究
- ▶植物のストレス応答研究に向けた根分泌物の可視化手法の開発
- ▶酸性条件下で分離された糸状菌内に見られる細菌様物体に関する研究
- ▶大腸菌におけるKDG応答転写因子KdgRの新規転写制御ネットワークの解析

院生からのメッセージ



菊込 将宏

KARIKOMI Masahiro

農芸化学専攻
博士後期課程 1年

自分と地球の未来を描く場所で

地球温暖化やCO₂、化石資源の枯渇など世界が直面している課題をご存知ですか。私は、光合成細菌シアノバクテリアの光合成と代謝の力で、これらの課題が解決できると信じて研究しています。光合成によってCO₂を吸収し、代謝によってバイオプラスチックをはじめとしたさまざまな物質を作ることができます。人類がCO₂を資源にできる未来も近いかもしれません。大学院は受験勉強とはまったく違う、「やってみなければわからない」世界です。そんな世界で、お待ちしています。

カリキュラム一覧

主要科目	
農芸化学研究演習Ⅰ～Ⅳ	食品機能化学特論
農芸化学論文読解・作成演習Ⅰ～Ⅳ	食品安全健康科学特論
微生物遺伝学特論	ゲノム微生物学特論
栄養生化学特論	食品工学特論
天然物有機化学特論	微生物生態学特論
環境分析化学特論	生物物理学特論
土壌園科学特論	微生物化学特論
植物環境制御学特論	ケミカルバイオロジー特論
植物制御化学特論	発酵食品学特論
食品生化学特論	環境バイオテクノロジー特論
特修科目目	
微生物利用学特論Ⅰ・Ⅱ	科学論文英語特論
畜産物利用学特論Ⅰ・Ⅱ	最新生命科学特論
先端分析機器学特論Ⅰ・Ⅱ	Global Scientific Communication in English
構造細胞生物学特論Ⅰ・Ⅱ	科学者倫理
細胞生物学特論Ⅰ・Ⅱ	ジオスタティスティクス特論

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

近年の博士学位授与 [抜粋]

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(農学)	シアノバクテリアの糖異化経路の重点的解析：酵素に着目した解析による酸化的ペントースリン酸経路とトリカルボン酸回路の生化学的・生化学的・生化学的解析	2021年度
博士(農学)	モテルラン藻のアルギニン合成系解析—オルニチン回路を中心とした酵素の生化学的解析と遺伝子過剰発現株の表現型解析—	2023年度
博士(農学)	根寄生植物の種子発芽と幼根生長に関する生物有機化学的研究	2025年度
博士(農学)	土壌中における有機物資材由来の水溶性有機物とリンの相互作用機構の解明によるリン可給性向上	2025年度
博士(農学)	糸状菌より見出されたアミノアシル化エルゴステロールの生理機能解析	2025年度

論文博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(農学)	15-デオキシデルタ ^{12,14} -プロスタグランジン ₂ による神経細胞変性誘導機構の解明	2021年度
博士(農学)	ヨーグルトの発酵を担う乳酸菌 Lactobacillus delbrueckii subsp. bulgaricus と Streptococcus thermophilus の共生メカニズムに関する研究	2021年度
博士(農学)	食感の良好なプレーンヨーグルトの新たな製造技術に関する研究	2024年度
博士(農学)	急流水利施設の水利模型実験と数値流体力学を活用した水利設計手法の確立に関する研究	2025年度

博士後期課程 Doctoral Program

Q 師事している教員は？

A 小山内 崇 准教授

環境バイオテクノロジー研究室は、シアノバクテリアやユーグレナ(ミドリムシ)をはじめとした微細藻類を用いて、さまざまな環境問題に挑んでいます。シアノバクテリアそのものの代謝や機能を調べる基礎研究から、バイオプラスチック原料生産などの応用研究まで幅広く行っています。微細藻類研究の最前線に立っている研究室です。

教員情報 P.154

農学専攻

農学専攻では、有用動植物資源（農作物、園芸作物、家畜など）の持続的かつ効率的な生産と利用に資するよう、生物・化学・物理・数学的手法を駆使して問題の発見とその解決を図るための基礎研究ならびに応用研究に関する科目を幅広く配置しています。また、有用動植物資源を生産するための水・土壌環境の最適制御や、人間と自然の共生を可能にする環境の構築に関する科目も配置し、食料と環境を総合的に捉える能力を身につけることができます。

人材養成その他の教育研究上の目的

近年の人間活動の活発化に伴う地球環境の劣化、人口の爆発的増加に伴う食料不足等、人類を含めた生物の生存にとって憂慮すべき諸問題が生じている。農学専攻では、遺伝子、細胞、個体、個体群・群集、生態系および景観に関する実験ならびに理論研究を通して、効率的かつ持続可能な農業や人間と自然の共生を可能にする環境の構築に寄与する国際的にも活躍できる高い問題解決能力を持つ高度専門職業人と農学研究者を育成する。

博士前期課程では、農学の幅広い専門知識を活かして社会に貢献できる人材を育成する。博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、独創的・先端的な研究開発を担う研究者や技術者を育成する。

2025年度 修士論文テーマ [抜粋]

- ▶ 養豚生産農場における防疫体制の最適化および疾病に伴う経済損失の定量化
- ▶ Genome-wide evidence for cryptic multi-generational introgression between invasive *Bursaphelenchus xylophilus* and native *B. mucronatus*
- ▶ イネいもち病菌におけるPoSOを介した菌糸融合とストレス顆粒の機能的役割
- ▶ シリンダーを用いた熱的性質測定法の開発とサーモTDRを用いた水田土壌物理性の経時測定
- ▶ カキ樹の休眠覚醒に及ぼす土壌乾燥処理の影響およびその機構に関する研究
- ▶ 新しく開発した生分解性液状マルチの散布がミニトマトの栽培における土壌環境、収量および生育に及ぼす影響
- ▶ 噴霧型RNAiによるブドウ晚腐病菌制御に向けた標的遺伝子選定とdsRNA導入法の検討
- ▶ 胎生線虫の種間比較に向けた多様性の解明と産様式の再検討
- ▶ 異なる環境がイチゴの物質生産と乾物分配に及ぼす影響
- ▶ 機械学習による土壌水分予測に基づいた高精度灌水管理システムの開発
- ▶ Island-specific evolution of reproductive plasticity within a single species: *Bursaphelenchus okinawaensis*
- ▶ サツマイモ塊根とジャガイモ塊茎の肥大に必要な土壌条件
- ▶ Carotenoids & volatile compounds in red/yellow watermelon fruits under different hydroponic nutrient conditions
- ▶ 16S/ITS アンプリコン解析によるベントグラス根圏土壌微生物叢の評価：プロビネ布散布・ダラスボット病害の影響と公開データのメタ解析
- ▶ オーナー制度が農村地域に与える影響
- ▶ 離島におけるローテーションを契機とした関係人口の可能性
- ▶ 根毛和種およびホルスタイン種における生産効率向上に向けた環境および遺伝要因の探索
- ▶ 塩分ストレスが作物の物質生産に与える影響—生育阻害の要因分解と定量的評価—
- ▶ GNSS-IRを用いた多周波観測による水稲植生高さと水位の同時推定
- ▶ 地下部加温がマンゴー樹の耐寒性に及ぼす影響
- ▶ トマトにおけるシンク・ソースバランスの調節を目的とした新たな施肥管理法の提案
- ▶ Basic studies toward the formulation and field application of the biological control agent *Dastarcus longulus* (Coleoptera: Bothrioderidae)
- ▶ タンパク質構成アミノ酸処理によるタバコの抵抗性誘導に関する研究
- ▶ 栽培条件の違いがトマトの炭素利用と窒素利用の相互関係に及ぼす影響
- ▶ 安倍川におけるカワラバタの集団形成要因と個体群構造
- ▶ 陸稲における再生二期作栽培の品種・栽培技術に関する基礎的研究
- ▶ 植物新品種保護同盟 (LIPOV) のテストガイドラインに準拠した審査基準に基づくアスバラガスの1年株および若年株の質の評価
- ▶ 線虫の環境適応戦略 — 過酷環境への耐性と宿主操作によるニッチ構築 —

院生からのメッセージ



上園 俊

UEZONO Shun
農学専攻
博士前期課程 2年

仮定とは異なる、未知の現象を周囲と議論して追究する

植物寄生性線虫は世界中の農作物や森林に甚大な被害をもたらす農業害虫です。私はマツを枯らすマツノザイセンチュウの嗅覚に着目し、線虫が同種をどのように認識しているか、その分子メカニズムの解明を目指しています。線虫は約1ミリの小さな動物ですが、ノーベル賞につながる大きな発見がなされてきた謎の多い生き物です。大学院では、そのような不思議な現象に直面した際、周囲と議論し実験を組み立てる過程に楽しさを感じています。皆さまと農学研究科で議論できる日を楽しみにしています！

Q 師事している教員は？

A 新屋 良治 教授

線虫は地球上で最も多様な動物の一つとされています。植物線虫学研究室では、植物寄生性線虫に加え、昆虫寄生性や極限環境に生息する線虫など多様な線虫の生きざまや適応進化プロセスの解明を目的に、分子レベルから生態まで広く研究しています。フィールド調査や分子生物学的技術を駆使して、線虫という不思議な生き物の理解を目指しています。

教員情報 P.155

カリキュラム一覧

主要科目	
農学研究演習Ⅰ～Ⅳ	植物病害虫学特論
農学論文読解・作成演習Ⅰ～Ⅳ	農業農村工学特論
作物科学特論	共生景観論特論
園芸科学特論	フィールドサイエンス特論
動物科学特論	

特修科目他	
園芸植物生理学特論Ⅰ・Ⅱ	動物育種学特論
植物保護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	動物繁殖学特論
分子生物学特論Ⅰ・Ⅱ	動物行動学特論
農業薬剤利用学特論	栽培学特論
土壌肥科学特論Ⅰ・Ⅱ	作物物質生産論特論
緑地情報学特論Ⅰ・Ⅱ	農業気象学特論
農業機械学特論Ⅰ・Ⅱ	生物統計・研究デザイン学特論
環境地盤工学特論Ⅰ・Ⅱ	造園植栽特論
環境地水学特論Ⅰ・Ⅱ	生態学特論
ランドスケープ情報特論	Global Scientific Communication in English
環境シミュレーション特論	科学者倫理
	ジオスタティスティクス特論

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

近年の博士学位授与 [抜粋]

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(農学)	農地における温室効果ガス発生因子に関する研究	2023年度
博士(農学)	バラ切り花品種「イヴ・ピアッチェ」の「インカーブ花」における奇形花弁発生機構および対策方法に関する研究	2023年度
博士(農学)	減災に向けた土壌水分計測と乾燥亀裂に関する研究	2023年度
博士(農学)	Modeling greenhouse gas emissions in rice paddies using machine learning techniques	2023年度
博士(農学)	The mechanism of pine wilt disease revealed by triadic relationship among <i>Bursaphelenchus xylophilus</i> , host pine tree, and vector cerambycid beetle.	2023年度
博士(農学)	放射性セシウムの土壌圏での動態	2024年度
博士(農学)	昆虫寄生性線虫における寄生戦略	2024年度
博士(農学)	Microbial symbionts as drivers of nematode diversification	2025年度
博士(農学)	多様な人びとが生物多様性に気づく場と保全を支持する関わりを持つ役割	2025年度
博士(農学)	The evolution of viviparity in nematodes	2025年度

農業経済学専攻

農業経済学専攻では、日本の食料の生産・流通・加工・消費の経済的側面の理論的実証的研究、先進国と途上国の農業・食料事情などの研究に加え、農業・農村の多面的機能（景観、保健・休養等）に関する研究を進めています。

●● 人材養成その他の教育研究上の目的

現代社会には、農業と食料、環境と資源をめぐり様々な問題が発生している。農業経済学は、経済学を中心としつつも、隣接する経営学・社会学・政治学等の社会科学により、その解明にアプローチする分野である。それを学問的なベースとする農業経済学専攻は、これらの社会科学上の豊富な基礎知識を身につけ、国際的視点や歴史的視点から幅広く問題をとらえ、さらに具体的な課題の解決に導く高い実践力を持つ人材の養成を目的とする。

博士前期課程では、農業経済学に係る幅広い専門知識を活かして社会に貢献できる人材を育成する。博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、独創的で社会をリードする研究・教育を担う研究者・教育者を育成する。

●● 2025年度 修士論文テーマ [抜粋]

- ▶都市農家の経営活動の多様性に関する実証的研究
—市街化区域内農地の維持に着目して—
- ▶産地商人による生産段階への関与における考察
—栃木県南部の干瓢を事例として—

●● カリキュラム一覧

主要科目

農業政策論演習Ⅰ～Ⅳ	農業政策論特論Ⅰ・Ⅱ
環境経済論演習Ⅰ～Ⅳ	環境経済論特論Ⅰ・Ⅱ
地域ガバナンス論演習Ⅰ～Ⅳ	地域ガバナンス論特論Ⅰ・Ⅱ
フードシステム論演習Ⅰ～Ⅳ	フードシステム論特論Ⅰ・Ⅱ
環境社会学演習Ⅰ～Ⅳ	環境社会学特論Ⅰ・Ⅱ
資源経済論演習Ⅰ～Ⅳ	資源経済論特論Ⅰ・Ⅱ
食料農業社会学演習Ⅰ～Ⅳ	食料農業社会学特論Ⅰ・Ⅱ
食料貿易論演習Ⅰ～Ⅳ	食料貿易論特論Ⅰ・Ⅱ
環境資源会計論演習Ⅰ～Ⅳ	環境資源会計論特論Ⅰ・Ⅱ
国際農業経済論演習Ⅰ～Ⅳ	国際農業経済論特論Ⅰ・Ⅱ
農業マネジメント論演習Ⅰ～Ⅳ	農業マネジメント論特論Ⅰ・Ⅱ
国際開発論演習Ⅰ～Ⅳ	国際開発論特論Ⅰ・Ⅱ
食ビジネス論演習Ⅰ～Ⅳ	食ビジネス論特論Ⅰ・Ⅱ
共生社会論演習Ⅰ～Ⅳ	共生社会論特論Ⅰ・Ⅱ

特修科目他

農業経済学特論Ⅰ	農業経済学特論Ⅵ
農業経済学特論Ⅱ	Global Scientific Communication in English
農業経済学特論Ⅲ	科学者倫理
農業経済学特論Ⅳ	ジオスタティスティクス特論
農業経済学特論Ⅴ	

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

●● 近年の博士学位授与 [抜粋]

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士（農学）	和牛繁殖農家の存続要因に関する実証研究	2022年度
博士（農学）	農業経営体の適応策に関する実証研究 —圃場分散と気候変動に着目して—	2022年度

論文博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士（農学）	女性農業者の「参加と学習の場」に関する研究 —組織からネットワークへ—	2021年度

●● 院生からのメッセージ



作道 雅楽

SAKUDO Uta
農業経済学専攻
博士前期課程 2年

自ら問いを立てる力を磨き、社会の複雑さに挑む

私は、耕作放棄地や空き家、放棄山林といった「田舎の放置された資産」をめぐる問題に関心を持ち、研究を進めてきました。学部時代に研究を行う中で、地域の人々が必ずしも経済的な合理性だけで行動しているわけではないことを、強く実感しました。この違和感が、経済論では語りきれない地域社会の持続というテーマへと私を導き、大学院進学の原因となりました。大学院では、自ら立てた問いを大切にしながら研究に専念できる環境が整っており、その恵まれた時間の中で研究を進めています。

Q 師事している教員は？

A 片野 洋平 准教授

食料農業社会学研究室では「先進地域で見て学ぶ」をモットーに、毎年海外での実地調査を行っています。昨年と一昨年はイタリアで調査を行い、日本の農業や過疎、食をめぐる課題を、国際的な事例と照らし合わせて考察してきました。日本の地域社会を世界の中で位置づけ、国際的な問題に寄与できる知見の創出を目指しています。

教員情報 P.157

生命科学専攻

生命科学専攻では、動物、植物、微生物を中心に、その生命現象の基礎研究から応用研究までを遺伝子レベル・分子レベルで解析を進め、“生命の持つ神秘性”を理解するとともに、農学的な視点から食料、環境、医学および健康に関わる多くの課題の解決を目標とした最先端の研究と教育を行っています。

●● 人材養成その他の教育研究上の目的

生命科学専攻では、生命科学とバイオテクノロジーの基本的な知識と研究手法を共通基盤とし、「食料、環境、生命」について基礎・応用の面から広く動・植物、微生物を対象に分子・細胞から個体レベルで研究を進めている。これらを通じて、高度な専門知識と技術を持ち、食品、化学、医薬、ゲノム解析、生物資源、環境の保全など広い分野の研究・教育機関と産業界で活躍する人材を育成する。

博士前期課程では、生命科学の素養と幅広い視野および論理的な思考を身につけ、食品、医療、生物資源、環境保全を含む様々な分野で活躍できる人材を育てる。博士後期課程では、博士前期課程で培った専門性を一層高め、独創的・先端的な研究・開発と実社会で指導的役割を担う研究者・教育者を育成する。

●● 2025年度 修士論文テーマ [抜粋]

- ▶ 初期化因子導入とエピゲム編集によるアタ体細胞でのOCT4 再活性化の試み
- ▶ 出芽酵母における熱ストレス誘導性ホルミシス効果に関わるタンパク質の発現プロファイルとその機能的解析— LC-MS/MSデータの多角的解析—
- ▶ OGR1欠損ゼブラフィッシュにおける遊泳行動を指標とした環境応答メカニズム解析の試み
- ▶ アマニ油の摂取によるアレルギー性結膜炎抑制機構に関する研究
- ▶ Long non-coding RNA BC006965の発現・機能解析
- ▶ Sox9SUMO化不全マウスにおける骨組織の力学応答の解析
- ▶ 共役リノール酸を生成する細菌の特性解析と炎症性皮膚疾患治療への応用の検証
- ▶ シロイヌナズナのARF GEFが根の生長を支えるしくみの研究
- ▶ DNAメチル化を指標とした細胞老化評価系の確立
- ▶ マウス視交叉上核—終板脈管器官門脈系の機能解析
- ▶ イネのバクテリア由来糖鎖MAMPs防御応答に関わるCEBIP型分子の解析
- ▶ 3-hydroxyxyperilinium構造を有するメイラド反応後段階生成物の生成機構および作用の解析
- ▶ ライトシート顕微鏡を用いたマウス胚筋結合過程の三次元観察
- ▶ ChrXq27.3 miRNAクラスターに含まれるmiR-506-514グループの発現制御に関する研究
- ▶ 雌マウス生殖器におけるプロテアーゼの解析
- ▶ 植物の傷害誘導性カス形成におけるオートファジーの生理的役割
- ▶ 太陽光曝露と睡眠との関係に関する研究
- ▶ OGR1欠損ゼブラフィッシュにおける聴および脳の形態学的解析
- ▶ コメ油の摂取による食物アレルギー抑制機構の解明に関する研究
- ▶ 植物のSYMRKの局在およびLRRドメインの機能解析
- ▶ 遺伝子過剰発現によるスクアレン高蓄積分裂酵母の作出と培養特性の評価
- ▶ C3 KO雌マウスにおける育児行動に関する解析

●● 院生からのメッセージ



山崎 勇輝
YAMASAKI Yuki
生命科学専攻
博士後期課程 2年

「探求」の先にある景色を目指して

動物が運動するためには、パワーを産生する骨格筋、体を支える骨格、骨格筋と骨をつなぐ腱、これら3つの器官が正しく形作られることが大切です。私は特に骨格筋と腱の結合部について、その形態形成や運動への適応に関する研究をしています。研究活動はすべてが円滑に進むことの方が珍しく、壁に阻まれることばかりです。しかし、研究活動を進めていった先には見たことがない景色があると信じています。自分の中に燃える飽くなき好奇心と探求心をエネルギーにして、ともに研究活動を楽しみませんか。

博士後期課程
Doctoral Program

Q 師事している教員は？

A 乾 雅史 教授

運動は動物が動物であることの本質です。正しく運動するために運動器系が正しく形作られる必要があります。動物再生システム学研究室では運動器形成のメカニズム、運動による適応について分子レベルからの解明を目指しています。当研究室では学年やテーマの隔たりを排除した横断的な意見交換から、研究室全体でそれぞれの研究内容を進めています。

教員情報 P.158

●● カリキュラム一覧

主要科目	
生命科学研究演習Ⅰ～Ⅳ	生命科学総合講義Ⅲ
生命科学論文読解・作成演習Ⅰ～Ⅳ	生命科学総合講義Ⅳ
生命科学総合講義Ⅰ	生命科学総合講義Ⅴ
生命科学総合講義Ⅱ	

特修科目他	
生命科学特論Ⅰ	生命科学特論Ⅷ
生命科学特論Ⅱ	生命科学特論Ⅸ
生命科学特論Ⅲ	生命科学特論Ⅹ
生命科学特論Ⅳ	Global Scientific Communication in English
生命科学特論Ⅴ	科学者倫理
生命科学特論Ⅵ	ジオスタティスティクス特論
生命科学特論Ⅶ	

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

●● 近年の博士学位授与 [抜粋]

課程博士

学位の種類	論文タイトル	授与年度
博士(農学)	種子休眠の制御機構に関する分子遺伝学的研究	2022年度
博士(農学)	細胞内自己成分分解系オートファジーを介した植物体内金属の利用効率向上機構の解明	2022年度
博士(農学)	遺伝子改変ブタの膀胱を利用するヒト膀胱作製の試み	2022年度
博士(農学)	種子発芽の温度応答を制御するMAPキナーゼ経路の同定と機能解析	2023年度
博士(農学)	概日リズム機構における視交叉上核神経ペプチドの役割に関する研究	2023年度
博士(農学)	概日リズム機構における視交叉上核出力メカニズムの解明	2023年度
博士(農学)	シロイヌナズナにおけるSec1/Munc 18タンパク質VPS45とQa-SNARE タンパク質 SYP4によるオーキシン関連発生制御機構の解析	2025年度
博士(農学)	射精後子宮内環境における凝集現象の分子機構および生理学的意義の解明	2025年度

● 教員一覧

農芸化学専攻

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 農芸化学専攻 教員一覧 >>>



荒谷 博 博士(農学) 教授
ARAYA Hiroshi

研究分野 天然物有機化学/生態化学

【最終学歴】東京工業大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/天然物有機化学特論
【研究テーマ】動植物および高等菌類等が産生する二次代謝物質に関する研究

石丸 喜朗 博士(農学) 教授
ISHIMARU Yoshio

研究分野 食品科学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/食品機能化学特論
【研究テーマ】脊椎動物の味覚・臍性感覚の受容・伝達と生体応答機構

長田 恭一 博士(農学) 教授
OSADA Kyoichi

研究分野 食品栄養化学/脂質生化学/食品安全学

【最終学歴】九州大学大学院
【担当授業科目】食品安全健康科学特論
【研究テーマ】脂質酸化物の有害作用とその栄養化学的対策に関する研究/脂質代謝を調節する食品成分の検索と安全性に関する研究

加藤 雅彦 博士(農学) 教授
KATO Masahiko

研究分野 土壌学/地盤環境学

【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/土壌園科学特論
【研究テーマ】資源最小投入量による作物生産に向けた土壌中物質挙動、汚染土壌地盤の修復と再生利用

久城 哲夫 博士(薬学) 教授
KUSHIRO Tetsuo

研究分野 天然物化学/ケミカルバイオロジー

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/ケミカルバイオロジー特論
【研究テーマ】植物・微生物由来天然物の生合成研究/アミノアシルtRNA合成酵素の二次機能の探索研究

島田 友裕 博士(工学) 教授
SHIMADA Tomohiro

研究分野 ゲノム微生物学

【最終学歴】法政大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/ゲノム微生物学特論
【研究テーマ】大腸菌をモデル微生物としたゲノム転写制御機構の全体像の解明

竹中 麻子 博士(農学) 教授
TAKENAKA Asako

研究分野 食品生化学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/食品生化学特論
【研究テーマ】食品中のタンパク質とビタミンEに関する分子栄養学研究/ビタミンEによる情動行動制御に関する研究

中島 春紫 農学博士 教授
NAKAJIMA Harushi

研究分野 応用微生物学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/微生物生態学特論
【研究テーマ】糸状菌における細胞表面タンパク質ハイドロフォビンの機能解析と応用

中村 卓 農学博士 教授
NAKAMURA Takashi

研究分野 食品構造工学
～おいしさを食品構造から追究～

【最終学歴】京都大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/食品工学特論
【研究テーマ】多成分系(タンパク質・油脂・多糖類)食品の加工時の構造形成と咀嚼時の構造破壊の見える化による食感デザイン

前田 理久 博士(農学) 教授
MAEDA Michihisa

研究分野 応用微生物学/微生物遺伝学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/微生物遺伝学特論
【研究テーマ】微生物の環境適応および遺伝的多様性創成の分子メカニズムの解明/微生物を利用した環境にやさしいものづくり

村上 周一郎 博士(農学) 教授
MURAKAMI Shuichiro

研究分野 応用微生物学/環境微生物学

【最終学歴】神戸大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/微生物化学特論
【研究テーマ】有用微生物の分離、生産される物質や酵素の特性解析/熟生肉や熟生魚の機能性の解明/新規発酵パン種の開発

安保 充 博士(農学) 准教授
ABO Mitsuru

研究分野 分析化学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/環境分析化学特論
【研究テーマ】生体の環境応答、環境ストレス物質を対象とした分析化学。バイオセンサーの開発

小山内 崇 博士(農学) 准教授
OSANAI Takashi

研究分野 微細藻類を用いた代謝工学および有用物質の生産

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/環境バイオテクノロジー特論
【研究テーマ】微細藻類を用いた、プラスチック原料や色素などの新しい生産法の開発



金子 賢太郎 博士(農学) 准教授
KANeko Ken-taro

研究分野 栄養生化学/栄養生理学

【最終学歴】京都大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/栄養生化学特論
【研究テーマ】食シグナルと脳機能のコミュニケーションを支える分子基盤に関する研究



鈴木 博実 理学博士 准教授
SUZUKI Hiro-mi

研究分野 生物物理学/バイオインフォマティクス

【最終学歴】東京理科大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/生物物理学特論
【研究テーマ】アミノ酸配列とタンパク質の構造との関連性/タンパク質の分子進化に関する研究



瀬戸 義哉 博士(農学) 准教授
SETO Yoshi-ya

研究分野 生物有機化学/植物ホルモン/植物生理学

【最終学歴】北海道大学大学院
【担当授業科目】植物制御化学特論
【研究テーマ】低分子シグナル伝達物質による植物の成長制御メカニズムの解明と応用



田畑 亮 博士(農学) 准教授
TABATA Ryo

研究分野 植物栄養学、植物ペプチドホルモン

【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/植物環境制御学特論
【研究テーマ】植物ペプチド分子による栄養吸収およびストレス応答制御機構の解明



山田 千早 博士(農学) 准教授
YAMADA Chi-haya

研究分野 応用微生物学/酵素学/微生物生態学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農芸化学研究演習/発酵食品学特論
【研究テーマ】乳酸菌・ビフィズス菌の機能研究/新規オリゴ糖分解酵素の探索/オリゴ糖の合成

農学専攻

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ 農学専攻 教員一覧 >>>




池田 敬 博士(農学) 教授
IKEDA Takashi

研究分野 生産システム学/植物計測学/施設栽培学

【最終学歴】愛媛大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/作物科学特論
【研究テーマ】省力化を目指した都市近郊型施設内作物生産/環境ストレスと植物の生理生態/植物工場における効率的作物生産



糸山 享 博士(農学) 教授
ITOYAMA Kyo

研究分野 応用昆虫学/害虫管理学

【最終学歴】鹿児島大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/植物病害虫学特論
【研究テーマ】害虫および天敵昆虫の生活史戦略の検証/総合的害虫管理技術の開発



岩崎 直人 農学博士 教授
IWASAKI Naoto

研究分野 果樹園芸学

【最終学歴】筑波大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/園芸科学特論
【研究テーマ】地球的規模の環境変動下における各種果樹の生産性および果実品質の向上に関する研究



岩崎 泰永 博士(農学) 教授
IWASAKI Yasunaga

研究分野 園芸学/土壌肥科学/農業工学

【最終学歴】東北大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/フィールドサイエンス特論
【研究テーマ】植物体内の光合成産物の動態に着目した栽培技術開発、新品種育成による生産性向上



川口 真以子 博士(医学) 教授
KAWAGUCHI Maiko

研究分野 環境因子の行動神経内分泌学による影響評価

【最終学歴】横浜市立大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/動物科学特論
【研究テーマ】産産動物からヒトに至るまでの環境改善を目的とした環境因子の生体への影響評価



新屋 良治 博士(農学) 教授
SHINYA Ryo-ji

研究分野 線虫学/(生態)進化発生学/植物保護学

【最終学歴】京都大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/植物病害虫学特論
【研究テーマ】植物寄生線虫病に関する基礎・応用研究/多様な線虫を用いた進化発生学的研究/表現型可塑性研究



半田 高 農学博士 教授
HANDA Takashi

研究分野 花卉園芸学

【最終学歴】筑波大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/園芸科学特論
【研究テーマ】花卉遺伝資源の多様性解析と利用/切り花の開花と花持ち



溝口 康 博士(農学) 教授
MIZOGUCHI Yasushi

研究分野 動物遺伝資源学/動物ゲノム科学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/動物科学特論
【研究テーマ】動物における遺伝子マーカーを利用した育種と多様性に関する研究

**元木 悟**

MOTOKI Satoshi

博士(農学)
教授研究
分野 野菜園芸学【最終学歴】筑波大学
【担当授業科目】農学研究演習/園芸科学特論
【研究テーマ】野菜類の生理・生態解明と安定生産技術・新作型の開発**大里 修一**

OHSATO Shuichi

博士(農学)
准教授研究
分野 植物病理学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/植物病害虫学特論
【研究テーマ】植物病原菌の病原性変異機構に関わる基礎的研究と病害抵抗性植物の分子育種法開発**菅野 博貢**

KANNO Hirotsugu

博士(工学)
准教授研究
分野 緑地計画/都市計画【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/共生景観論特論
【研究テーマ】地域開発における戦略的アプローチと地区デザインの策定**小島 信彦**

KOJIMA Michihiko

博士(農学)
准教授研究
分野 農業水文学/水利施設工学【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/農業農村工学特論
【研究テーマ】人間の水利利用と自然の水循環との調和に配慮した利水システムの研究**佐々木 羊介**

SASAKI Yosuke

博士(農学)
准教授研究
分野 動物生産学【最終学歴】明治大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/動物科学特論
【研究テーマ】疫学的アプローチやデータサイエンスを用いた家畜生産性向上に関する研究**塩津 文隆**

SHIOHIRA Fumitaka

博士(農学)
准教授研究
分野 作物学【最終学歴】愛媛大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/作物科学特論
【研究テーマ】作物における収量性・品質の向上に関する研究/気候変動に適應した作物栽培技術の開発**津田 勝利**

TSUDA Katsutoshi

博士(理学)
准教授研究
分野 植物育種学/分子遺伝学/発生学【最終学歴】総合研究大学院大学
【担当授業科目】農学研究演習/作物科学特論
【研究テーマ】イネの形態形成・生殖メカニズムの解明/育種法の開発**服部 俊宏**

HATTORI Toshihiro

博士(農学)
准教授研究
分野 農村計画学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/農業農村工学特論
【研究テーマ】農地を中心とした土地利用計画と農村空間整備・地域資源管理手法に関する研究**矢崎 友嗣**

YAZAKI Tomotsugu

博士(農学)
准教授研究
分野 環境気象学/農業気象学【最終学歴】北海道大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/共生景観論特論
【研究テーマ】森林・湿地・農地における熱・水・CO₂収支と気候変化の影響の解析**伊藤 善一**

ITO Yoshikazu

博士(農学)
講師研究
分野 施設園芸学【最終学歴】千葉大学大学院
【担当授業科目】農学研究演習/フィールドサイエンス特論
【研究テーマ】ムラサキの栽培と紫根染に関する研究/アッケシソウの栽培に関する研究**小泉 敬彦**

KOJIMA Takahiko

博士(環境学)
講師研究
分野 生態学/微生物学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】国際開発論演習/共生景観論特論
【研究テーマ】生態学の知見を生かした持続可能な農業の研究/植物と微生物の共生に関する研究

農業経済学専攻

※2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があります。

※各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ [農業経済学専攻 教員一覧 >>>](#)**池上 彰英**

IKEGAMI Akihide

博士(農学)
教授研究
分野 中国農業論【最終学歴】東北大学大学院
【担当授業科目】国際開発論演習/国際開発論特論
【研究テーマ】中国の「三農問題」と農業政策/中国の農業構造問題/中国の農産物流通システム**市田 知子**

ICHIDA Tomoko

博士(農学)
教授研究
分野 農業政策/農村社会学【最終学歴】お茶の水女子大学大学院
【担当授業科目】環境社会学演習/環境社会学特論
【研究テーマ】ドイツを中心にヨーロッパの農村振興、都市と農村の関係を分析し、日本の実態と比較



大江 徹男

博士(経済学)
教授

OHE Tetsuo

研究分野 アメリカ農業/フードシステム論

【最終学歴】 京都大学大学院
【担当授業科目】 フードシステム論演習/フードシステム論特論
【研究テーマ】 国内と北米における畜産物の流通構造と安全性



小田切 徳美

博士(農学)
教授

ODAGIRI Tokumi

研究分野 農業・農村政策論

【最終学歴】 東京大学大学院
【担当授業科目】 地域ガバナンス論演習/地域ガバナンス論特論
【研究テーマ】 農業・農村政策の政治経済学的分析/
地域ガバナンス論/農山村再生論



作山 巧

博士(国際経済学)
教授

SAKUYAMA Takumi

研究分野 貿易政策論

【最終学歴】 青山学院大学大学院
【担当授業科目】 食料貿易論演習/食料貿易論特論
【研究テーマ】 農産物貿易政策や国際貿易協定に関する政治経済学
的研究



竹本 田持

博士(農学)
教授

TAKEMOTO Tamotsu

研究分野 農業経営学および地域農業論

【最終学歴】 明治大学大学院
【担当授業科目】 農業マネジメント論演習/農業マネジメント論特
論
【研究テーマ】 地域内発的アグリビジネスと農山村振興



橋口 卓也

博士(農学)
教授

HASHIGUCHI Takuya

研究分野 戦後日本の農業・農村政策

【最終学歴】 東京大学大学院
【担当授業科目】 農業政策論演習/農業政策論特論
【研究テーマ】 条件不利地域政策の展開動向と政治経済的背景
についての実証分析



藤栄 剛

博士(農学)
教授

FUJIE Takeshi

研究分野 農業・資源経済学

【最終学歴】 京都大学
【担当授業科目】 資源経済論演習/資源経済論特論
【研究テーマ】 ミクロデータによる農業資源・環境問題の経済分
析



岡 通太郎

博士(地域研究)
准教授

OKA Michitaro

研究分野 開発経済学/農村経済論/新制度派経済学

【最終学歴】 京都大学大学院
【担当授業科目】 共生社会論演習/共生社会論特論
【研究テーマ】 アジア農村における要素市場構造と資源利用制度
における基層文化の役割と変容



片野 洋平

博士(法学)
准教授

KATANO Yohei

研究分野 食・農・環境の社会学/法社会学

【最終学歴】 上智大学大学院
【担当授業科目】 食料農業社会学演習/食料農業社会学特論
【研究テーマ】 食をめぐる社会的分析/
地域社会における環境政策/所有者不明土地の問題の解明



佐々木 宏樹

博士(農学)
准教授

SASAKI Hiroki

研究分野 農業環境政策/環境経済論

【最終学歴】 大阪大学大学院
【担当授業科目】 環境経済論演習/環境経済論特論
【研究テーマ】 農業環境問題への政策的アプローチとその評価、
行動経済学を活用した農業者・消費者の行動変容に関する研究



中嶋 晋作

博士(農学)
准教授

NAKAJIMA Shinsaku

研究分野 農業経済学

【最終学歴】 東京大学大学院
【担当授業科目】 食ビジネス論演習/食ビジネス論特論
【研究テーマ】 食ビジネスの経済学的研究/
農地集積のマーケットデザイン



本所 靖博

修士(商学)
准教授

HONJO Yasuhiro

研究分野 持続可能性の会計学

【最終学歴】 明治大学大学院
【担当授業科目】 環境資源会計論演習/環境資源会計論特論
【研究テーマ】 持続可能性と会計/大学生の地域貢献とCSV/
農業経営分析/農産物原価計算



暁 剛

博士(農学)
講師

XIAO Gang

研究分野 農業経済学/内モンゴル農業論

【最終学歴】 明治大学大学院
【担当授業科目】 国際農業経済論演習/国際農業経済論特論
【研究テーマ】 内モンゴルにおける農家の階層分化

生命科学専攻

※ 2026年4月1日時点のものです。今後変更や見直しを行う場合があ
ります。
※ 各教員の研究指導の学生募集の有無については、入学試験学生募
集要項公開時の研究指導教員一覧表で確認してください。

■ [生命科学専攻 教員一覧 >>>](#)



浅沼 成人

博士(農学)
教授

ASANUMA Narito

研究分野 微生物学/栄養学

【最終学歴】 明治大学大学院
【担当授業科目】 生命科学研究演習/生命科学総合講義II
【研究テーマ】 消化管微生物の遺伝子的代謝調節機構の解析

**乾 雅史**博士(理学)
教授

INUI Masafumi

研究分野 発生生物学/シグナル伝達【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅰ
【研究テーマ】脊椎動物筋骨格系の発生メカニズム**大鐘 潤**博士(農学)
教授

OHGANE Jun

研究分野 エピジェネティクス【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅲ
【研究テーマ】組織・細胞種特異的DNAメチル化と非コードRNAによるエピゲノム改変**賀来 華江**学術博士
教授

KAKU Hanae

研究分野 糖鎖生物学/植物環境分子生物学【最終学歴】大阪市立大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅲ
【研究テーマ】植物の防御応答シグナル認識・伝達機構に関する研究**川上 直人**農学博士
教授

KAWAKAMI Naoto

研究分野 植物環境生理学/植物分子生理学【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】温度による種子休眠・発芽制御機構の解明**河野 菜摘子**博士(理学)
教授

KAWANO Natsuko

研究分野 動物生殖科学/分子細胞生物学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅰ
【研究テーマ】体内受精におけるオス精漿タンパク質の役割、精子と卵子の膜融合メカニズム**紀藤 圭治**博士(理学)
教授

KITO Keiji

研究分野 プロテオミクス/分子生物学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅱ
【研究テーマ】細胞老化やストレス適応に関わるタンパク質の網羅的解析・オートファジーによるタンパク質分解の包括的解析・プロテオーム高感度解析技術の開発**戸村 秀明**理学博士
教授

TOMURA Hidenori

研究分野 シグナル伝達学【最終学歴】東京都立大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅲ
【研究テーマ】Gタンパク共役型受容体を中心とした情報伝達機構と生体機能の解析**中村 孝博**博士(農学)
教授

NAKAMURA Takahiro

研究分野 時間生物学/神経科学/動物行動学【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】体内時計発振機構の解明および生体リズムを利用した医薬品開発・食糧生産への応用**浜本 牧子**農学博士
教授

HAMAMOTO Makiko

研究分野 応用微生物学/微生物分子系統分類学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅱ
【研究テーマ】遺伝資源としての新規微生物の探索と活用・分裂酵母の新規機能遺伝子の探索と機能解析**吉田 健一**博士(医学)
教授

YOSHIDA Kenichi

研究分野 細胞生物学/分子発生学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅰ
【研究テーマ】哺乳動物細胞の増殖・分化ならびに恒常性維持機構の研究**吉本 光希**博士(食品栄養科学)
教授

YOSHIMOTO Kohki

研究分野 植物分子細胞生物学/植物生理学【最終学歴】静岡県立大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】植物の環境適応における細胞内自己分解系・オートファジーの分子機構とその役割の解明**渡辺 寛人**博士(農学)
教授

WATANABE Hirohito

研究分野 食品化学【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅰ
【研究テーマ】腸管上皮細胞の機能解析/生体内メイラード反応が関与する糖尿病合併症発症機構の解析**高橋 直紀**博士(工学)
准教授

TAKAHASHI Naoki

研究分野 植物分子遺伝学/植物生理学【最終学歴】東京理科大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅴ
【研究テーマ】植物の環境適応機構の解明**田中 博和**博士(理学)
准教授

TANAKA Hirokazu

研究分野 植物細胞生物学/植物発生生物学【最終学歴】名古屋大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅴ
【研究テーマ】植物の細胞極性と発生の制御機構の研究



出嶋 克史

DEJIMA Katsufumi

博士(理学)
准教授

研究分野 遺伝子機能解析/糖鎖生物学

【最終学歴】九州大学大学院
【担当授業科目】生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】全身性RNA干渉に関する研究



長竹 貴広

NAGATAKE Takahiro

博士(医学)
准教授

研究分野 免疫学

【最終学歴】東京大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習/生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】食を介した免疫・アレルギー・炎症の制御/
粘膜関連リンパ組織形成機構の解析



橋本 恵

HASHIMOTO Kei

博士(理学)
講師

研究分野 神経生物学/分子細胞生物学

【最終学歴】お茶の水女子大学大学院
【担当授業科目】生命科学研究演習、生命科学総合講義Ⅳ
【研究テーマ】小脳発生機構解明と神経変性疾患発症メカニズム
の解明・治療法探索